

外泊率の抑制について

1. 入院中の外泊について

※ここでの外泊は、減算の対象となる2泊3日以上の外泊を意味しております。

徳島大学病院は高度急性期病院であり、地域病院の拠点として、多くの患者の治療にあたっております。しかし、本院は未だ待ち患者が多く、入院待ち期間が長くなる傾向があることも事実であります。ついては、**より多くの患者を治療できるように、入院中に外泊している（容体が安定している）患者については、可能な範囲で退院していただき、病床の有効活用にご協力をお願いします。**

2. 外泊率の全国比較について（2019年4月～8月実績）

本院は外泊件数201件、外泊率0.21%であり、外泊率は42大学中21位となっています。

（参考）外泊患者201人の内訳

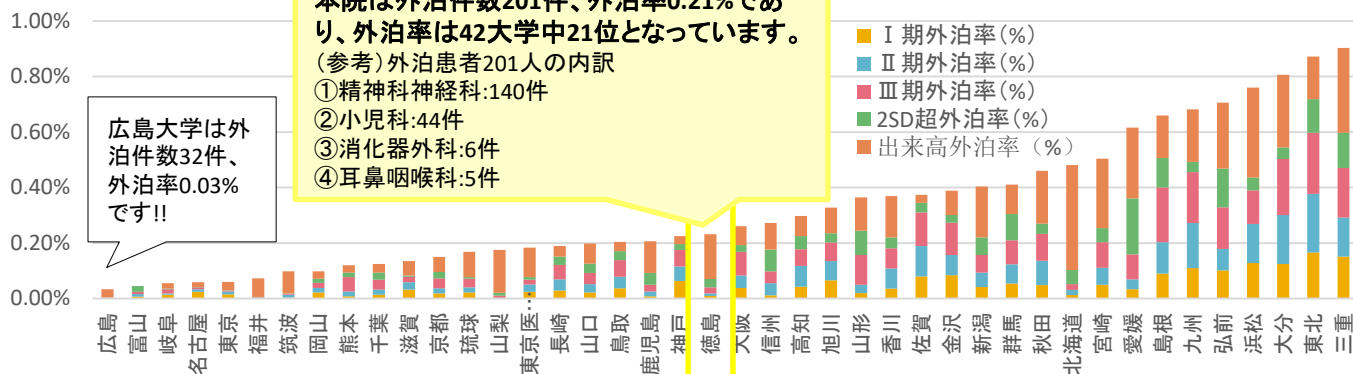
①精神科神経科:140件

②小児科:44件

③消化器外科:6件

④耳鼻咽喉科:5件

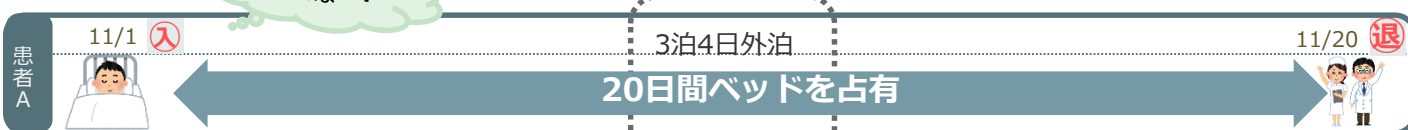
広島大学は外泊件数32件、外泊率0.03%です!!



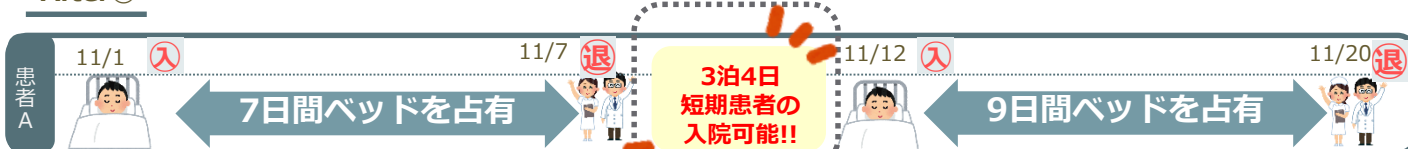
3. 外泊率を抑制することによる効果について

Before

例えば...



After①



After②



外泊患者が退院することによって、病床稼働率の低下が危惧されますが、外泊期間中の中日の入院料等は基本的に15%のみの算定となるため、**外泊患者が退院となっても、経営に与えるマイナスの影響は限定的です。**それよりも、空床を確保したことにより、新患者を治療できた場合は、地域貢献できるとともに、診療単価の高い患者を治療することに繋がるため、**経営的にも好影響が見込まれます。**
限られた医療資源の有効活用にご協力をお願いいたします。